

現代青年の対人関係についての探索的研究

—女子学生の面接データから—

橋 本 剛¹⁾

【問題と目的】

本論文の目的は、先行研究の知見ならびに面接データに基づいて、現代青年の対人関係における世代特徴が心理社会的ストレス過程に影響を及ぼす可能性、ならびに関連研究における数量的データ分析の妥当性を検討することである。

近年、現代青年の対人関係や価値観には、独特の傾向が存在することを指摘し、そして時にはその傾向を懸念する論調が多く見られる（藤竹，1994；小谷，1993；栗原，1989；宮台，1994；千石，1996；1994；1991など）。さらに、その結果顕在化した問題として取り上げられているものの中には、いじめの質的変貌、新興宗教や超常現象への関心など、心理学において重要なトピックとなっているものも少なくない。その中には指摘の妥当性が疑問視される部分も少なからずあるが、その検証も含めて、これらは心理学においても傾聴すべき知見であると考えられる。

そこでまずこれらの論調を概観してみると、その多くが現代青年の特徴として、「マサツ回避の世代」（千石，1994）、「自分が傷つくことを恐れるあまりに、自己完結的であり、自己閉鎖性を土台としたもの」（岸，1989）等の表現で、内集団での閉鎖的平和主義、そして自分と関わりのない他者への配慮の欠如を挙げている。ただし、この指摘をしている論説の多くは、実証的データに基づくものではない、社会現象からの主観的推測の域を出ないものであることには留意しておくべきであろう。しかし、少数ながらも、実証的研究によって現代青年の対人関係の変容の有無およびその内容を明らかにし、さらにそこから生じる種々の問題を検討しようという試みも存在する。

例えば青年心理学において、青年期では深い友人関係を持つことを通じて新たな自己概念を獲得し、健全な成長が促進される（西平，1990）という見解がある。その

一方で青年期の友人関係の希薄化を指摘する声を受けて、岡田（1996）はその指摘が事実なのか、そして現代青年の対人関係様式が適応にも影響を及ぼすのかを検討している。彼は自身の一連の研究結果から、まず前者の問題については、現代青年の特徴として記述される「表面的関係にとどまり群れる」側面と「互いに傷つけないように関わりを避ける」面は別個のものであること、また、内省が高い、理想自己像と現実自己像との相関が高いなどの特徴を持つ、従来の青年像を体現する者も一定の群を成しており、大半の青年が「現代的」であるわけではないことを指摘している。また、後者の問題については、従来の青年像に合致する群が対人恐怖的傾向が高い一方で、群れ志向群は適応的特徴を示すことを明らかにしている。このことは、ここ20数年の間に青年の友人関係が良好になってきていると同時に、その友人関係が「切磋琢磨する」ことよりも「会って群れる」こと自体を目的化しようになったという関・浦上（1996）の指摘とも合致する。その一方で、円滑な関係の維持が重要視されるようになったのに伴って、顕在的な対人衝突を極度に避ける傾向が、その場しのぎ的な対人的相互作用を促し、かえって深刻な関係性の歪みや精神的苦痛を生じさせる危険も指摘されている（宮台，1994；大平，1995）。

一方、社会文化的背景に基づいた青年の対人方略（人間観や社会観に基づいた人付き合いのスタイル）の変容についてのデータ分析も存在する。例えば岩間（1995）は、80～90年代に実施した大量のサンプルによる調査研究の結果から、現代青年像を典型的に考察している。まず彼は、物質的にも精神的にも個人の独自性を重視し、結果的に評価懸念を高める性質を持っていた80年代の差異文化における日本の大学生の類型として、高度の情報処理能力を持ち、対人関係や社会への期待水準を自在に調節する「ミーハー」、対人関係という期待外れが生じ易い領域から退却する「ネクラ」、ミーハーに追従する模倣的な「ヨリカカリ」、期待水準が高く、期待外れには規範的に対処する「バンカラ」、期待水準を低めに設定し、期待外れを免疫化する「ニヒリスト」の5種類

1) 名古屋大学大学院教育学研究科博士課程（後期課程）

を挙げている。そしてこれらの類型と対人関係や社会との関わりについては、ミーハーとバンカラは積極的、諦め顔で退却しているのがネクラ、最初から接触を絶つことでプライドを維持するニヒリスト、そしてそれらの中間に位置するヨリカカリという反応パターンを示している。しかし、この流れを受けた90年代の調査では、先述の5類型について、ミーハーとバンカラの激減、ヨリカカリとニヒリストの激増、ネクラの増減なしという傾向が指摘されている。特に群れ志向のヨリカカリと他者に期待しないニヒリストの激増は、90年代の青年像を明らかにする上で一つの鍵となる可能性もあろう。つまり、差異化文化の矛盾が露呈し、かつ評価懸念は残ったままの90年代は、「自分（たち）の感覚のみを頼りにして、他者の目を気にするのはやめよう」という方略が採用され易く、調査結果はこの方略の有効性を反映しているとも考えられるのである。現在、「視線無視症候群」（大塚、1997）等の言葉で表現される内集団完結傾向に、この方略が作用していることは想像に難くない。

さて、現代青年の対人関係に世代の特徴があるとすれば、その特徴が対人関係に起因するストレス（対人ストレス）に何らかの影響を及ぼす可能性も十分に推測されよう。具体的には、まず第1に、現代青年が対人関係のどの側面にストレスを感じるかが従来の青年とは違っている可能性が考えられる。橋本（1997 b）は、ストレスサーとして想定される対人ストレスイベント（ストレスサーとなり得る対人的相互作用）として、対人葛藤（社会の規範から逸脱した顕在的な対人衝突事態）、対人劣等（社会的スキルの欠如などにより劣等感を触発する事態）、対人摩擦（対人関係を円滑に進めることにより気疲れを引き起こす事態）の3種類を見いだしているが、指摘される一般的な現代青年像からは、対人葛藤はなるべく避けられ、そのための対人摩擦はやむを得ないという方略が想定される。そして実際、橋本（1997 b）のデータでも対人摩擦の頻度は対人葛藤の頻度を大きく上回っている。これは、従来の疾風怒濤的な青年像では対人葛藤の多さが推測されることと対照的である。

第2の影響可能性として、ストレス緩衝要因として重要な役割を果たすサポートネットワークの質的変容可能性が考えられる。先述した傾向は、「内集団では波風を立てることを避けて、気を使ってとりあえず仲良くやっとうよう」という対人方略の体現と考えられるが、この方略では深刻な話題はタブーとなり易いことも推測される。その結果、深刻な問題に直面したとき、周囲の対人関係がサポートネットワークとして十分には機能し得ず、表面では笑いながらも内心は解答の模索に戸惑い、例えば「自分さがし」と銘打ったセミナーやサークル、もし

くは宗教の影響力を過大なまでに受けてしまう、という現象にもつながり得よう。つまり深い関わりを避ける風潮の結果、何らかの回答を提示する特定集団に過度に関与してしまう可能性が高まるというパラドックスが生じ得るのである。そして、「どんな場合でも、外集団差別は肯定的な社会的アイデンティティを獲得する唯一の方法である（Turner, 1987）」としたら、迷走の末に見つけた準拠集団に過度のコミットメントを持ち、さらにその準拠集団が選民思想的であるという事態も当然生じ得よう。また、橋本（1997 b）は対人葛藤や対人劣等よりも対人摩擦が、バーンアウトに類似した症状である、人間関係に対する疲労感や嫌悪に強い影響を及ぼすことも見いだしている。その意味でも現代に特徴的とされる群れ志向的な友人関係に適応できない者は、深くコミット出来る集団を見いだしたときは集団外に対して、見いだせないときは人間関係全般に対して、嫌悪や敵意を増大させる可能性がある。

第3に、同じくストレス緩衝要因で、ソーシャルサポートなどの外的要因のみならず、社会的スキルや頑健性などの内的対処資源の変容も考えられる。刺激過多で絶対的な価値観や枠組みが喪失された現代では、個々の他者が全般的他者の代表として一般化できなくなりつつある。そして様々な他者の心情を同時に考慮するのは不可能だとしたら、選択しうるストラテジーは自己保身にに基づいた、愛他性や共感性の低減もしくは限定となろう。現実が混乱していることは知っているのだが、混乱が混乱のままでは、自分のコミットする世界を限定して守っていくくらいしか明瞭な方策はないということである。そして、島宇宙化（宮台、1994）とも言えるこの内集団の細分化は、相対的に自分がコミットしない対人関係領域の拡大、さらにその領域と何らかの理由で接触しなければならない際の摩擦の増幅をもたらす可能性を多分に含んでいる。これは、対人ストレスイベントの規定因であるネットワークストレイン（橋本、1997 a）、つまり脅威的対人関係の拡大とも解釈できる。そのような状況で円滑な対人的相互作用を行うには文脈に応じた多様な社会的スキルが必要とされる。しかしそのスキルを習得・利用することは必然的に対人摩擦の増大を意味し、かといってそのスキルを用いなければ、対人葛藤、もしくはもっと大きいレベルでの集団間葛藤が生じるのは必至であろう。

いずれにせよ、時代的・文化的要因もそこにコンセンサスが得られれば、単なる誤差ではない。しかし、仮説検証に拘泥した結果、普遍的ではないが現状では大きな影響力を持つ要因を同定するのに過度の手続きと時間を必要とするのは、即時性が要求されるテーマには非効率

的な側面もある。また、いうまでもなく現代青年の世代性という本稿の主題を議論するには多数のサンプルを対象とした数量的データも必要かつ重要であるが、調査研究には研究者の想定した枠組みの範囲内でしか議論できず、かつ回答者に抵抗のない顕在的な変数しか扱えないという欠点がある。本研究の主題の性質を考慮すると、少数でも研究者の枠組みを覆しうる自由発想的データから詳細な情報を得ることは、議論の妥当性の検証、さらに記述的現象からの仮説の構築というふたつの意味で重要であろう。そこで本研究では、面接法によって現代青年の特徴を示唆すると考えられる変数について現象記述的に検討する。

【方法】

1. 被験者：心理学の講義中に面接調査への協力依頼を承諾した大学2～4年生および学部研究生計31名（女子29名、男子2名）。ただし男女比の偏りが大きいので、本研究では女子29名のデータのみを扱うこととする。なお、以降のTableにおける個々の回答の前の数字は回答者番号である。
2. 実施方法：第1回を1995年7月、第2回を同年10～11月に実施した。毎回、半構造化面接によって、対人関係や精神的健康に関連すると考えられる質問を実施した。なお、面接は被面接者の承諾を得て録音した。また、被面接者には回答したくない質問に関しては回答しなくてもよい旨が伝えられた。

【結果と考察】

＜第1回＞

第1回の面接のうち、ここではふたつの質問を取り上げる。まず第1の質問は、「人間関係で、どのようなときにストレスを感じるか」である。対人関係と精神的健康の関係はソーシャルサポート研究をはじめとして肯定的な側面が強調される傾向があるが、対人関係は非常に影響力の大きいストレス、もしくはストレスの間接的原因やストレスの影響力の増幅要因になる可能性もある（橋本, 1997 a）。そこで、対人関係に起因するストレスに関して、現代青年の特殊性を現象記述的に導き出すことがこの質問の目的である。回答（Table 1）は、橋本（1997 b）が見いだした対人ストレスイベントの3類型のうち、対人劣等事態と対人摩耗事態で多くが占められている。このことから、現代の大学生においては、知人との直接的かつ顕在的な衝突である対人葛藤はあまり問題とされず、表面的には円滑な人間関係の中で、その関係維持に費やすコスト（対人摩耗）や、関係の中で生じる不安・劣等感（対人劣等）が中心の問題と

なっていることが伺える。しかし、もちろん対人葛藤、さらに関係におけるストレス以前の問題である、関係が形成されないことによる孤独感も挙げられていることには留意しておくべきであろう。

第2の質問は、「人付き合いをする際、心掛けていることは何ですか?」というものである。先の質問でも示唆されたように、現代の大学生において円滑な人間関係の維持は非常に中心的な課題であると考えられる。この課題については社会的スキル研究で一般的な議論はなされているが、その中でも彼（女）ら自身が重要視している要因を探索することは、現代青年の人間関係の独自性を明らかにする上で重要であろう。

さて、回答結果（Table 2）であるが、これらを概観すると、回答は大まかには3種類の志向性を含んでいるようである。まずひとつは「葛藤回避」、つまりともかくトラブルはできるだけ避けるようにする志向性であり、この種の回答はかなり多く見受けられる。第2は「個人の尊重」と考えられる志向性であり、「葛藤回避」と連動するところも大きい。人は人、自分は自分で意見・価値観等が違ったら、それについて議論したり自己主張したりしないという志向性であると解釈されるものである。これは主には相手の立場を尊重するというニュアンスでの回答が多かったが、自分と（価値観が）合った人と接触するようにしているという回答も、自分の立場を尊重するという意味で、方向性は逆であるがこの志向性に含められよう。

以上のふたつはいずれも、現代青年論でよく議論される深い関わりの回避や個人主義を反映したものと考えられるが、もう一つ見いだされた志向性は「積極的関与」と考えられるもので、なるべく自分から話しかけたり関係を形成していくことを心掛けているという志向性である。昔ながらのバンカラ風なのか、深い関係は苦手でも浅く広い関係を形成していくのは得意なのか、それとも回答にもあったように「言わなきゃ分かってもらえないと思って」そうしているのか、この志向性の解釈については議論の余地があろう。いずれにせよ、この志向性と密接に関連する関係開始や自己主張のためのスキルは、社会的スキルの中でも重要なものであることは数多くの社会的スキルに関する文献（Argyle & Henderson, 1985; Nelson-Jones, 1990など）や和田（1991）などの社会的スキル尺度の構成からも明らかである。しかしその一方で、前述した「葛藤回避」や「個人の尊重」は一般的には社会的スキルとしてはあまり言及されていない。以上の回答を包括すると、青年の対人関係においては、「スムーズに関係を形成し、関係に積極的に関与しつつも、個人の価値観やプライベートを侵害せず、葛藤

Table 1 人間関係でどんなときにストレスを感じるか？

(アンダーラインが実線は対人葛藤、点線は対人劣等、波線は対人摩擦に該当すると考えられる内容)

| | | |
|----|---|---|
| 1 | 話が全然合わない人と、長時間話さざるを得ないようなとき。 <u>父親の友人の相手を無理やりさせられたりとか。(後略)</u> | るし、お酒も飲めないので行きたくない。ジュースも頼めないで困る。家族以外では人に合わせる傾向があるけど、合わせるのはやだなと思う。ついて行くけど、内心やだなと思う。 |
| 3 | ちょっと親しいくらいだと、会話がなくなってしまうのが気詰まり。全然親しくない人は、自己紹介など喋ることはいっぱいある。会う機会が多いと、その一線を越えられる。あと、 <u>合わないと感じる人と喋るときに困る</u> 。半分くらいは自分で話題を探すけど。 | 11 自分がこういう人間だと思われていると、私はそうしたくなくても、周りがそう望んでるから、そう動かなくちゃいけないというプレッシャーを感じる。自分はその枠から抜け出せない。羽目を外したくても外させてくれない。自分の気持ちより周りの期待を優先させてしまう。最近ではそれでいいかなとも思っているけど。もうひとつは、人のいいところが自分にはないなあということとありありと感じたときに、自分が出来ないことを人がやっていると羨ましいなあっていうか、自分には出来ないからいらいらして。でも、割り切ればいいことだと思う。カラスはカナリアにはなれないのと同じ。自分が理解できたら現状もかえられるし、理解できないうちに変えようとしたらおかしくなっちゃうと思う。「自分は理解できました？」ずいぶん気が楽になりました。でも、変える段階にはまだ至ってない。きっかけがあれば生かしたい。 |
| 4 | (前略)ほんとに喋りたくないときに結構あって、そんな期間があって、そのあとすぐ喋りたい期間があって、その切り替わりの時にそれまで遠ざけていた友達のところにかんきゃいけなから、「きっかけがむずかしい？」そうですね。「どういう風にきっかけ作ります？強引に入っていく？」まあ、そうですね。いったん喋りかけちゃえば。自己中心的な感じなのかな。「その波の理由は分かります？」…わかんない。 <u>喋りたくないときに話しかけられると苦痛</u> 。だから、他人の目からみると、わけわかんない人かな。「そんなときに話しかけられると、攻撃しちゃう？」親しい人だと、攻撃はしません。相手によって変わってくる。(後略) | 自分が理解できたら現状もかえられるし、理解できないうちに変えようとしたらおかしくなっちゃうと思う。「自分は理解できました？」ずいぶん気が楽になりました。でも、変える段階にはまだ至ってない。きっかけがあれば生かしたい。 <u>衝突して、人が私にもう話してくれないような感じがするとき</u> 。衝突すると、とことんぶつかって、あとでおわびの手紙を書くというパターンになっちゃう。引けないところは引かない。引けるところは引くけど、妥協する範囲が狭い。 |
| 5 | 自分の思うことを、思うように相手に伝えることが出来ない。 <u>伝えられないっていうのは、自分の表現力不足</u> 。言葉が見つからないこともあれば、自分の気持ち自体が分からないこともある。相手側には問題はない。(中略)相手を傷つけるっていうのは、自分がそうされたときに、自分もそうしているのではないかと思う。傷ついたときは、表面では笑っている方。そう思っているなら言うて欲しい。そして一人になったときに落ち込む。 | 12 相手の考えに同調しないといけなとき。言うてはいけなことがあるとき。「自己主張できない？」やろうとおもえばできるけど、そのあとどうなるかが恐いのでこらえる。あと、自分の意見が通らないとき。「そんなことは多い？」そんなに多くないけど、まあたまに。 |
| 6 | サークルで、飲みに行ったときに、自分は嫌いなんだけど他人の噂話とか芸能人の話とかで、 <u>突然ふられるとリアクションに困る</u> 。わりと自分からは話さない。人を覚えるのが苦手なので、どのくらい仲良くしているのか分からず、やりづら。あまり話をしない人にあつたとき、気付かないふりをしてそこそそ逃げてしまう。 | 13 部活にいる人が、して欲しいことをいわれたときにどう対応したらいいのかというときがあった。でも一応引き受けてやるけど、そのときはいらいらする。「仕事自体がいや、それともその人に頼まれることがいや？」頼まれること。他人からは平気。その人とは波長が合わない。 <u>親との意見の食い違いは、その当時下宿をするとかしないとかでもめていたので。結構人見知りするので、初対面の時にストレスを感じる。</u> |
| 7 | 話さなきゃいけないのに話せなくて、自分に対してストレスを感じるときがある。人に対してストレスは感じない。自分に対してひとりでもいらいらくよくよする。(中略)自分がくよくよしている時にほめられると困る。 | 14 同じ学部の人で、顔はよくみるけどほとんど喋ったことがない友達の友達みたいな人にどうすればいいか。とりあえず、 <u>相手の出方を伺う</u> 。好きな人の嫌いな側面を見て、相手よりは自分の気持ちにストレスを感じる。自分が普通の時に、友達がいらいらしてたりとか落ち込んでたりとかで、それをぶつけてこられるとこっちまで沈んでしまい、いやだなと思う。上手い解決法も見つけてあげられないし。逆はあまりない。 |
| 8 | サークルで3年なので仕事が割り振ってあって、自分ではちゃんとこなしているつもりでも、もう少し頑張れといわれていて、そう言われてもすぐできるわけはなくて。「そんなときはどうしてるの？」黙ってます。これに関しては、意地になって頑張ったりはしない。挨拶とかは、バイトをして。そのバイトは今はやってない。こうしたらいいんだとは思ってたけど、行動にはしなかった。短期のバイトなので、まあいいかと思って。あと、沈黙は、もうちょっと話したいんだけど、こちらもかまっちゃうので。こちらも向こうもきっかけを作るんだけど、あとが続かない。最近では慣れてきたけど。「沈黙したときは？」次の話題を考えて、出してもいい話題だったら出す。立ち去ろうとしたりはしない。 | 15 思っていることが上手く話せないと言うのは、自分で上手く話そうと思いついてしまっていて、それが喋りにつながらない。 <u>表現力不足と、相手の顔を伺ってしまうところで躊躇する</u> 。深い話が出来ないというのは、今の大学生活で、生い立ちとかを喋る相手がいなくて、そこまで喋れないと親しくなると思えないから、今の状況は表面的でいやだ。全ての人とそうなるのは不可能だと分かっているけど。今はあまり働きかけは出来ない。きっかけができるまではしかたない。 |
| 9 | 私が勝手に、こう動いてくれたらとか思って、その通りに動いてくれない。言えいいのかも知れないけど、言うて自分が悪く思われるのもいや。(中略)自分の考えを認めてくれないというのは、受けとめてくれない。分かってくれて、それに対して意見を言ってくれるのはいいけど、考えていること自体をのっけからあしらわれると。「誰が？」先生とか、そういうのを行動で表す、親密でない友達とか。結構人の動きが気になる。一回親しくなればいいんだけど、そこにいくまでのが。親しくなりたくても、自分から話しかけられない。今の状況にとけ込むのは難しい。 | 16 最近では減ったけど、特に中学の頃、集団で楽しくやっていたところに入って行けなかった。疎外感かな。今は最初から集団にすることが多いので、そんなことはない。そのようなことがあったときは、ただひたすら寂しさに耐えていた。そのほかには、仕事が溜まってしまったとき、自分で抱え込んでしまっていて、周りに不平もいえないとき。周囲は、自分がそれを楽しんでやっているとと思っているようだ。もっとみんなに任せてくれてもいいんだよとも言われたけど、それが出来ない。悪いと思ってしまう。「気を使うのが好き？」意識 |
| 10 | 部活のあと、飲み会にいかんきゃいけなけど、お金もかか | |

Table 1 人間関係でどんなときにストレスを感じるか？(続き)

- せずに使っていると思う。
- 17 言ってることが伝わらないのは、自分の表現力不足。そんな自分にいらいらする。みんなが楽しそうな時は、損したような気分になる。表面的には笑っているけど、自分に分らない話の時は、親しい人にはきくけど、そうじゃなくて、話を折っちゃうような時はきかない。早くおわんないかなと思う。馬鹿にされるというのは、そんなことも知らないの？と言われたとき。どうでもいいことにこだわられたとき。
- 18 周りの考えについては、こうと考えたら曲げない方だけど、多数には従った方がいいようなときに感じる。いったん嫌いになると、とことん嫌いになるのでそこでうまくやっていかなければならないときにストレスを感じる。基本的にいやな人は無視するけど、一対一ではなくていろんな人がいる場合はそうもいかないの、後で自己嫌悪を感じる。ただし表面上はうまく繕っている。他にはあまりない。あまり自己主張しないし。対立するよりは人に合わせておいた方がストレスを感じない。
- 19 たまに、授業の関係で違う専攻の子と仲良くしなきゃいけないけど、あまり気が合わないっていうか、気を使うのが大きい。根本的に違っているっていうか、私は遊ぶのが好きだけど生真面目な人が多い。それで気疲れする。高校や地元の友達とはそんなことはない。
- 20 家族内で、というのは、姉が結婚する前に些細なことで父親ともめて、間にはいらなきゃならないことがあった。思っている反応が返ってこないというのは、人をまとめているときに、みんなで何かしなきゃいけないときに、なんにもしない人がいて、手伝ってあげても何もいわなくて、礼儀がなくなってしまう。当たり前なのが出来ない人が結構駄目。何故出来ないのか分らない。自己嫌悪は、外の大学からきて、ついていけないと思った。劣等感を感じやすい。初めての状況に放り込まれたとき。人と仲良くなるちょっと前の時。お互い喋ろうとしているときの沈黙。
- 21 言いたいことを言えない人には、極端に言えない。親密度に関係があると思う。親しい人には結構言う方。返事が帰ってくる人には言えるけど、言わない相手には自分も言えない。優しい人にはこっちも優しくなってしまう。でも優しい人が相手の時はそれほど言えなくてもいらいらしない。親密なだけで受け入れるだけで言うてくれない人の時にいらいらする。(中略)対人関係はキャッチボールと言うけど、それが片側通行になると私はやりづらい。
- 22 結構家庭教師で問題があって。こっちを先生と認めてなくて、男の子で中学生だから、反抗期で馬鹿にされて、私も大人になれずに喧嘩しちゃって、喧嘩別れとかあって。次に行くともう直ってるんだけど。できるだけおれるようにはしているんだけど。でも可愛いところもあるから憎めない。喧嘩別れしても、次の解はけろっとして、別に仲直りはしない。(妹との喧嘩について)前は性格が違うから喧嘩するんだと思ってたけど、今はあまりに似ていて、きっと自分でもいやだとおもってるところを目の前でやられるからそれがいや。でもそれがいやとはいわない。もう知らないと思って接しなくなると、向こうも働きかけなくなると喋らなくなる。でも用事があるとそういうことは忘れてころっと仲良くなる。私が左右しているのかも知れない。喧嘩しているときはお互い気にしない。無理矢理きかけを作って仲直りしたりもしない。自分とペースが合わない人と一緒にいると、疲れる。自分がペースが遅いから。でも、ペースが早い友達で好きだなあっていう人もいるし、好きな友達だと疲れないけど、同じペースの友達よりは疲れる。「そういうときは頑張ってこっちがペースを合わせる？」私好き嫌いが激しくて、仲良くなりたいたと頑張るけど、どうでもいい人には冷たくなる。なるべく
- 早く逃げたくなる。
- 23 例えば、あまり仲良くない人に、自分がどういう人か決めつけられること。親密な人からはかまわない。(中略)あと、親しくない人には自分から壁を作ってしまおうので、そこから入って来られると、いらいらする。あまり親しくない人に踏みこんでこられると、自分から引いてしまう。最初引いてるけど、だんだん慣れてくると親しくなれる。自分からは踏み込んで行かない。だから親しい友達に消極的な人は少なく、みんな向こうから踏み込んできた。
- 24 人とあって話をしているときに、自分は話がうまくないから、沈黙のときに何を話せばいいのかすごく考えてしまう。そこで自分を責めてしまう。そのときは頭の中でぐるぐる何を話すか考える。他に誰か来てくれないかなとも思う。何となく、嫌われたかなと思うこと。軽率な発言をしたりしたとき。やりとりに変化は無いけど、自分に後ろめたいところがあるから気にしてしまう。それが尾を引くけど、そのあとに違ったことが分かればそれで終わる。
- 25 あまり親しくない人と一緒にいるときは気疲れする。初対面くらいだと気楽な部分もあるけど、ちょっと知ってるくらいの人だと、あ、どうしようって。「そういう時どうする？」とあえず挨拶して、でもそういう時って話題が思い浮かばなかったりして、で、そういう人はだいたい共通の知人がいるから、そういう人の話をしたりして。だいたい自分から話しかける。あと、自分の嫌いな人と会ったとき。そういう時はなるべく早く過ぎ去ろうとする。
- 26 サークルで、2年生を入れるかというときに、入れない方向だったんだけど、男の子が入っちゃって、そこから1年生・2年生に気を使わなければならないから、面度臭かった。今まで一年間一緒にやってきた仲間がいて、また新しい仲間とすぐ仲良くなるっていうのもなんかよくなくて。「今は？」今はその子たち(2年生)がきてないんで。来たら来たで、心配したほどストレスは感じないだろうけど。サークルで男の子が裏で仲間外れをしているので、それがいやだと思えるときがある。仲がいいと感じていたいだけ、バランスが崩れるとストレスを感じる。
- 27 約束がいっぱいあってそれを選ばなければならないとき。人と話しているときも、他の人に声を掛けてしまっていて話している相手にいやな顔をされ、それはいけないと思うんだけど、それが出来ない。優先順位がつけられない。みんなと仲良くしたいから。対応が分からないというのは、ギャグのつっこみとかと一緒に、うまい返しが思いつかない。普段は考えずに動いているけど、ふと我に帰ったとき、これはすごい迷惑を掛けているのではないかと思って、はぁとなる。自分自身の人付き合いの仕方が間違っているのではないかと思う。きついことをいう友達がいる、自分が機嫌が悪いときはかちんとなる。その子は悪気はないけど、そこまでいわんでもっていうのもあるし、自分がやるべきことをきちんとやってないからってのもある。疲れてるときはよけいストレスを感じる。
- 28 サークルの旅行で、監事をしたとき、みんなに楽しんでもらったかなと心配したり、一緒にやった子に迷惑や負担をかけたかなと気にしたり、そういうことです。別に表立っては何も無いけど、内心気にするパターン。意見が合わなかった友達がいる、私はその後は普通に接したつもりだったのに、相手は根に持ってて、態度が違ってた。数日経ったら自然に元に戻ったけど。
- 29 どこかで二人を見かけた、という噂がすぐに広まる。

Table 2 人付き合いをする際、気をつけていることは？

(アンダーラインが実線は葛藤回避、点線は個人の尊重、波線は積極的関与に該当すると考えられる内容)

| | | | |
|----|---|----|--|
| 1 | 気になるいやなところを見ないようにしている。 | 16 | 意識はしていないが、表情に気をつけてしまう。そしてつまらない表情をしていると、それで落ち込んでしまう。 |
| 2 | 喋らないと分かってもらえないことが分かって、笑わせるようなこともわりとやるようになった。 | 17 | 怒らせない。自分の価値観を押しつけない。 |
| 3 | 相手が傷つくことは言わない。 | 18 | なるべく喧嘩は避ける。喧嘩するくらいだったら自分の主張を殺す。「どうして喧嘩を避けるんですか？」争いごとはしたくない。出来ることなら平穏無事に過ごしたい。面倒だし、ストレスになる。人間関係のいざこざが一番ストレスになるから。 |
| 4 | 口が悪いので、それをできるだけ穏やかにしようとする。 | 19 | 昔から、人の傷つくことは言わない。見極めが難しいので、プライベートなことは言わない。 |
| 5 | 会わない人に無理に会わせるよりは、自分にあった人を大切にしようと思う。自分が会わせようとする疲れるので。 | 20 | 最低の礼儀は守る。でも適度に崩す。気を遣わせないようにする。 |
| 6 | 相手の機嫌を損ねない。初対面の人には、自己主張せずにこにこしている。場所や相手によって使い分ける。 | 21 | あまり自分を出さないこと。相手を見きわめてから出すこと。 |
| 7 | 相手の生活にはあまり踏み込まない。というか、踏み込めない。 | 22 | 意識してるのはあんまり無いけど、相手よりも弱いっていうか、下の立場に行く。ついてく方が自分っぽくて、それは無意識にそうしているのかなあとと思う。相手が引っ張り易いように、何もできないから頼みます、みたいな(笑)。 |
| 8 | なるべく話しかけるようにしようとは思っている。 | 23 | 口調には気をつけている。あと、なるべく人には頼らないっていうのがあって、絶対頼らなければならない状況になるまではなるべく頼らないようにしている。あと、なかなかできないけど、人の話をしっかり聴くということ。 |
| 9 | まず自分が嫌われないように。そのために、相手にとっていやな行動はしないようにする。 | 24 | やっぱり自分から話さないとか駄目かなと思いつつ、前よりはそう心掛けています。 |
| 10 | 嫌われないように、きついことを言わないようにしてる。 | 25 | 相手に不快感を与えない。そのため、疲れてても笑顔で、とか、あまり髪の毛ぼさぼさで来ないとか。 |
| 11 | 特になし。人によって、どれくらい押しついたらいいのかを考えながら話すけど、それは感覚の部分で、こうしようと思えることはない。相手が喋る人だったら聞いてあげようと思うし、喋らない人だったら自分からどんどん喋るし。それで喋っていると、相手が実は嫌がってたりすることもある。「あなたは、表面と内心は一致してるの？」怒るときははっきりと怒るけど、落ち込んでる時はみせないように努力する。いやな人には近付かないようにする。話をうまく切り上げるとか。 | 26 | 約束を破らない。なるべく話題が続くようにする。 |
| 12 | その人を傷つけないように。 | 27 | つまらなさそうな人がいたら、声を掛けようと思う。拒否されなければ、誰でも友達になれる。 |
| 13 | 自分の意見はいうけど、強制はしないようにしている。違うところは、認める部分は認める。あと、言うてはいけないことは言わないようにしている。 | 28 | 特にきめてはないけど、そのときそのときで、自分の態度を、適切に振る舞おうとする。 |
| 14 | 自分が我慢すればやり過ぎせるときは、とことん我慢する。事を荒立てない。 | 29 | 人の悪口をむやみに言わない。 |
| 15 | なるべく名前を呼ぶようにする。ちゃんとその人を認識して話したいから、と思う。呼びかけてから話をする。 | | |

を回避する」というスキルが要請されていると考えられるが、現在の社会的スキル研究がこれらの内容まで包括しているかについては検討の余地がある。

<第2回>

第2回の面接からは3つの質問をここでは取り上げることとする。第1の質問は、『今の青年は表面的な付き合いは上手いけど、関係が深化しない』という指摘がありますが、この指摘についてどう思いますか? というものである。そしてその個々の回答 (Table 3) の冒頭では「そう思う」か「そうは思わない」かが述べられているが、回答者数の少なさ、さらに質問自体が誘導的であることなどを考慮して、ここではこの指摘の是非自体には触れず、何故そうなるのか、さらに現状の是非についての回答に着目したい。

ここでまず興味深いのは、『いろいろな人がいる』と

いうステレオタイプ」である。表現として矛盾しているが、これは個人の独自性が結果的に認識されるわけではなく、個人の独自性を前提として、その先の認識を行うという意味である。対人的相互作用の結果、他者の独自性を認めるわけではなく、自己と他者は違うという前提の元に、対人的相互作用を行っている、とも言えよう。指摘肯定派の「個人の立場重視」的発言、指摘否定派の「昔の人のことは知らないけど」というコメントの両方でこのステレオタイプは認められていると解釈される。これは言うなれば「全員と仲良くするのは不可能だ」という前提を仮定することによって他者に対する期待水準をあらかじめ低く設定しておく方略であり、自尊心の維持には有効であるが、その一方で、相互理解のための働きかけを阻害している重要な要因となっている可能性も考えられよう。さらに、現状に対する働きかけについては、コストの問題に言及している回答が少なからず見ら

Table 3 今の青年は人間関係が表面的には上手いけど浅いという指摘についてどう思いますか？

(アンダーラインが実線は『いろいろな人がいる』ステレオタイプ関連, 点線は状況のコスト関連, 波線は心理のコスト関連)

| | |
|--|---|
| <p>1 当たってると思う。実感もある。ほんとに深い関係の友達は数えるほど。会ったら喋る友達はたくさんいるけど。「それに対して、どう思う？」今は、喋れる友達、悩みを聞いてもらえる友達に満足している。(中略)「どうしてそうなるんだろう？」よくわからない。</p> | <p>のなか。「じゃあ自分に関してはそれは当たってる？」うん、わりと表面ではへへへって感じで。でもそれがみんなに当てはまるかっていうのは、ちゃんと深く付き合ってる子もいるし、一般的には言えないんじゃないかと。「どっちが多い？」それなりにちゃんと深いつながりを持つてる人が多いと思う。(後略)</p> |
| <p>2 その通りだと思う。なかなか難しい。深い関係の人は少ない。何でも話せるというのは考え方が似てないと難しいし。普段は深いことまでしゃべらないし、時間的にも短いから。わりとみんな忙しいし。「ならないというよりなれない」そうですね。「周りは？」どうでしょう。解らない。(後略)</p> | <p>10 そう思う。自分でもそう、頑張らないと。「頑張りが必要？具体的には？」自分を閉じこめないで。「どうしてそれができない？」こわいからか、自分を出すのが嫌だからとか、慣れてないとか。「行動に移そうとしますか？」あまりやってない。けどそうしなきゃと思ってる。今、深い関係って何人くらい？10人いない。5人はい。それに家族を足して。「それをもう少し増やしたい？」それか、その人達ともう少し深く。「周囲の人は？」うーん、大学ではそんな感じ。</p> |
| <p>3 人それぞれなんでよく解らないけど、一般的にはそうなのかも知れない。周りを見ると、自分は自分で何とかするって友達が多い。それを表面的っていうのかも知れない。「周囲より自分を優先させる傾向？」そう、ですね。「じゃあ、当たって無くはない？」そんなに冷たい関係ではないけど。(中略)「それ以上深入りしたくないしされたくないってあります？」そうは思わない、意識してない。「集団重視より個人重視？」大学に入ってからはそんな感じ。「時代的なもの？」うーん。「それはいいことなのかな？」高校の頃はみんな仲良かったんで、大学来てからばーっとしゃべってさーっと別れる傾向にびっくりしたって言うか、ああ、あんまり仲良くならないんだって感じたことはあるけど、今は特に、違和感はない。「いい悪いじゃなくて、それが自然だと。」そうですね。</p> | <p>11 あんまり実感しないけど、(中略)自分の好きなグループだとよく話すけど、知らない人たちは打ち解けられないと思う。私の場合は最初に見て、話せそうかっていうのを勝手に決めちゃって、話す人をえらんじやうところがあって、そうでない人には人見知りだけど、話せそうな人にはすごく積極的に話しかけたりして。自分がいったときにドンと跳ね返ってくるのがこわいからだと思う。「話す人ってのは、どいう基準で選ぶの？直感？」そんな感じ。ほんとにみんな話せると思うけど、のりが違う人には話せない。私ははしゃぐ方ではないんで、はしゃぐ人には話しかけられない。でも結構八方美人。みんな適当な浅さで付き合っていて、ほんとに深い人はそんなにいない。深い人は5人前後。分野によって違うけど。全然話せない人はそんなにいない。だいたい話せるけど、少数の自分とは違う人たちは話せなかったり。話しても挨拶程度。挨拶してからなにか話す人はいっぱいいる。「1割苦手、1割深く、8割普通？」そうですね。でも、話せないと思うともうシャットアウトしちゃう。「その方が楽？」楽と言えば楽。別に全員と話さなくちゃいけないわけじゃないし、たくさんの人と普通に話せるだけで。もう少し深い話しをする人が増えたらいいなとも思うけど、少数でもいいとも思う。今は不自由はない。「周りは？」同じだと思う。でも、深い人がどれだけいるか、結構違うなと思って。自分は縛られたくないから一人で行動しようとするけど、いざというとき頼りにされなくて。いっつもいっしょにいる子たちは、そういう場合羨ましいなと。</p> |
| <p>4 当たってるような気もするけど、…当たってるかな。「自分は？」私はそう、広く浅く。「深入りしないのはなぜ？」したくてもできないときと、したくないからやらないときがある。気分がムラがあって、人恋しいときと一人でいたいときがあるから。人恋しいときは上手くやって行けるけど、人に接したくないときも我慢しなきゃいけないけど。「我慢できないから、浅いところにとどまってる？」そうですね。(中略)今はみんなと親しくなりたいと思うけど、もしかしたら2ヶ月くらい経つと、これでいいやと思うかも知れない。今は親しくなりたいたいけどできない。(中略)「他の人は？」私の常識では考えられないような人がいて、やっぱり自分が変だと思うことがたびたびある。「じゃあ、自分のような付き合い方が少数派だと思う？」ほんとに深い人はいないかも知れないけど、ある程度深い友達はいらってひとは大勢いると思う。</p> | <p>12 結構当たってると思う。知り合いは多いけど、ほんとに何でも話せる友達って、誰がいるかなと思うときもあるし。この人にはこれを話したらいけないって言うのは結構ある。相手によって使い分ける。(中略)「それについて、どう思う？」深い付き合いがしたい。「他の人は？」私よりも何でも話してるんじゃないかなあ。私は仲がいいつもりなんだけど、思いつくと、それほどでもないんじゃないかと思うときもある。</p> |
| <p>5 両方いると思う。「自分は？」私は多分深い付き合いをするタイプ。深い人も多くないけどいなくはない。表面的なのは得意じゃない。(後略)</p> | <p>13 結構そうだと思う。話しをして、自分の内面を言わなくても会話成り立って、それから進めないうな子が結構いるんで、そういうのは表面の付き合いだと思う。内面を話す人もいるので、やっぱり分けてるのかなって。「その差は一体？」受け入れたりよく考えてくれるか、それとも流しちゃうか、多分向こうの受け答えによって分けている。深い人も最近増えている。(後略)</p> |
| <p>6 と思う。自分自身その方が楽と思う。深い関係はない方が楽。「どうして？」休み時間とか一人でいたくないけど、趣味が一人でやることだから、自分勝手なので、ずっと付き合うなんてしてないんじゃないかと。「大事なときは一人でいたい」はい。「他の人は？」私の周囲はそうなのかなあと。「で、それはいいこと？」ですね。</p> | <p>14 そうだと思う。私もそう。周囲を見てもそう思う。深く付き合うようになると欠点も見ることになりますよね、欠点も見ながら上手く付き合うのができないんじゃないかと。「そのことはいいこと、悪いこと？」どちらともいえない。理想をいえば、欠点もちゃんと言って、上手く付き合っていくというのがいいんだろうけど、欠点を受け入れるのは相手が好きなほど心の負担になる気がする。だからなるべく自分を戻す。(後略)</p> |
| <p>7 人によるけど、増えてきたと言われたらそうかも知れない。けど人によるから、そうは思わない。「自分は？」なるべく干渉しないようにしているので、(中略)普通にしていると干渉しない。「何でも言い合う相手は？」相手がそういう人なら言い合うけどその人の家庭の事情みたいなのは言わない。関係ないことは話さない。</p> | <p>15 結構当たってると思う。自分もそうだし、周りも実は結構それほど深くはないんじゃないかと思う。「それに対して、どう思う？」できるなら、表面的な付き合いより深くつき合</p> |
| <p>8 表面的なのは多いと思うけど、(中略)深いのはやっぱりだとも大変だと思う。普通に過ごしてたら表面的になるのは当然だと思う。きっかけがあれば。普通に生活してたら表面で済む。でも表面だけでも困る。深い付き合いも3人くらいいた方が安定すると思う。この人とはそれくらいだなんてのを見つけて付き合えばいいと思う。「他の人は？」他の人も、表面的でもない。</p> | |
| <p>9 (前略)自分を考えると、深い関係を結ばないというよりは、したいんだけど難しい、できないということが多くって。「どうして？」どうしてでしょう、いや、性格の問題がある</p> | |

Table 3 今の青年は人間関係が表面的には上手いけど浅いという指摘についてどう思いますか？(続き)

- 16 方がいいと思う。「どうしてそうなるんだろう？」みんなが自分に自信を持ってなかったりとか。「深入りして傷つくのがこわい？」そうですね。私は確かに自分に自信がないけど…踏み込んだら相手はどう思うかなあって考えると踏み込めない。さぐり合ってる。
- 17 確かに、遊びに行く友達が多いけど、相談する人は少ないのが現状。周囲でも、知り合いの数は多いけど親友は少ない人が多いから、あながち嘘ではないと思う。付き合う中身の違いと思うけど。干渉しないでいられる関係はそれはそれで有り難いから、相手によると思う。どちらも大切。「人数やバランスは？」これ以上深くという欲求もないし、現状で満足している。
- 18 …「自身は？」何でも話せるのは2, 3人だけど、それが少ないって言われちゃうと、やっぱり表面的な付き合いしかできてないと思うし、そういう人が一人でもいれば、深い関係を持てる人だって。「他の人は？」私の周りは表面的な付き合いだけって人はあんまりいないと思う。「2, 3人って人数は自分に取って適当だと思う？」適当だと思う。
- 19 大きく広く浅く、その中心に深い人がちょっとなのかな。だから全体的にみると、広く浅くの方が多いんだけど。「自分も？」そう、ですね。「周囲は？」だいたいそんな感じなのかなあって。
- 20 そうなんです。そうかも知れない、自分はそう。性格がそうかも知れないけど、仲良くなっても気を使っちゃうというか。「そのことについてどう思う？」その人がそれで良ければいいし、考え方次第。「あなたは？」自分は、何でも言える友達が欲しい。「いまのままじゃあちょっと」うん。「他の人は？」でも、ある程度深くて、そういう人が何人かいれば別に。(後略)
- 21 そういうところもあるかなあって気はする。自分もそうかも知れない。ほんとに仲良くなれば深い付き合いもするけど、そうでないひとはそのときだけ上手くやってればいいやというのがあるから、だから人間関係作っていくのが下手、っていうのは違うかも知れないけれど、まあそれなりにその指摘は当たっていると思う。「それはいいこと、悪いこと？」私は表面的な付き合いは、全てがそうだといやだから、その中で何人かとはちゃんとした付き合いをしてるから、でも全ての人とそういう付き合いをするのは無理だから、それはしかなかった。(後略)
- 22 私の場合は当たってると思うけど、どこまで感じ合えれば深く付き合ってるのかを考えたときに、昔のひとと今のひとでは尺度が違ふ気がする。私たちの感覚で深くっていうのも、昔の人の運命共同体みたいなものよりは薄れてる気はする。自分として残しておきたいところを言える人は、私はまだ見つかっていないって言うか。どこか自分のある部分をかくしてるっていうのは感じる。(中略)「そのことはいいのか？」今は言いたくても言えないのかも。もし100%言える人が現れたらそっちの方がいいと思うけど、なかなかいないなあ。私の性格上、そういうのができないのかもしれないけど。外からみたら殻が固いかもわからない。物足りなさよりも、自分の性格的なものがいやだと思う。「周囲の人は？」周囲の人も、どこか話さない部分はあと思うし、深入りし過ぎると困るっていうか、どこか他人ですよってしとかないといけない部分ってあと思う。表面的なことが悪いとは言わないけど、深くつき合えなくなったっていわれると、そうかもしれない。みんなは他にもっと深い関係の人がいるのかなとも思うけど。物足りないというよりは、まあこんなもんじゃないという感じじゃないかなあ。
- 23 それは私にはピンと来ない。昔の若者は知らないけど、私にすれば十分助け合ってると思うし、支えになってると思うし、(中略) 中学高校の友達とも仲いいし。「周りは？」私の友達はそうだと思う。自分がそうだからみんなそうなんじゃないかなと思っちゃう。
- 24 その子が一としゃべっちゃう。少し仲いい状態だと、相手に踏み込まれると、自分で止めちゃう。でも、来ないでと思うけど、自分から踏み込まないから、相手が踏み込んでこないともっと仲良くなれない。それでだいぶシャッフルされちゃう。真ん中へんが充実してない。それじゃいけないとは思う。でも気付くと引いてる。(中略)「周りの人は？」人それぞれと思うけど、どっちとも言いきれない。「どっちが多いと思う？」表面上の人が多いと思う。
- 25 当たってなくはないけど、自分は表面的なつきあいは上手くないから。「客観的にみると」うまいっていうより、状況的に表面的なつきあいが多くなると思う。大学ってそういうところだから。授業でも、サークルでも、バイトでも。「じゃあ、時間の余裕がないという状況がそうさせている？」意識して表面的な人もいるかもしれないけど、私の感覚ではそう。「それはどっちかっていうと、良い、悪い？」どっちかっていうと、悪いのかなあ。でも、少数深い関係の人がいればいい。「じゃあ、表面的な関係がたくさんあって、中に少数深い関係があるのが理想？」理想っていうか、自分も含めて、ほとんどの人がそうだと思う。
- 26 ある意味では当たってるし、ある意味では外れてる。「どういうこと？」人それぞれ広い付き合いをしていると思うけど、それとは別に深い付き合いもちゃんとしていると思うから。「自分も？」あたしも挨拶程度とか、ちょっと話してっていう人もいれば、かなり話し込んだりする人もいるから、表面的だけでもなければ深い人だけでもない。「他の人も？」多分そうやってるんじゃないかなあと思う。「表面も深いのも上手い？」上手い人もいれば、八方美人もいるし、困っちゃうな。(後略)
- 27 表面的な付き合いしかできないっていうか…あたしに関して言えば、そんなに友達は多くないけど、表面的な付き合いはめんどくさいっていうか、できないんで、深い友達としか付き合い合っていないんで、自分ではそんなにあてはまらない。表面的な付き合いは気をつかわなきゃいけない部分があるんで、顔に出ちゃったりするんで、表面的な付き合いをする人は避けるって言うか、付き合い合えなければそれで済んでいってしまうことなんで。(中略) 気が合わない人とはとんとん深めていこうって努力はもうしない。中学の時はそれでもみんな仲良くって努力してたけど、それが疲れてきちゃって。「周囲は？」似たような感じだと思いますけど。私の友達はそういう人が多い。
- 28 現代しか知らないからよく解らないけど、安保反対のような意気込みはない(笑)。思うのは、行動に起こさなければいかなあ。信頼と行動は一致しない。自分を大切にしている。一緒に行動しないから深くないというわけではないという気持ちがある。
- 29 そういう人が多くなったのかなとは思う。「自身は？」ほんとに深く接しているのはほんとに限られた人しかいないし、あとは楽しくやってるってかんじで。自分がこのくらいいたらと思うほどではない。で、まづいとは思わないけど、もうちょっと深く付き合いたいと思う。「どっちかと言うと悪いこと？」うん。「どうしてそうなるんだろう？」深く関わりすぎて裏切られるのがこわいとか、自分が傷つくんじゃないかとか、じゃないですかねえ。「自身は？」躊躇したりします。「どうして？」踏み込んで行って、そこまで入り込んで行っているのかとか、相手を傷つけないだろうか。「遠慮？」うん。「他の人は？」どうなんでしょう。相手を傷つけないで、自分にも返ってくるから。
- 30 (前略) 人によって違う。「自身は？」表面的だけとは思わない。深い人もいる。他の人の話を聞くと、でもそういう傾向はあると思う。「どうしてそうなる？」接触時間が少ないから。話すことも限られてくるし、話してる量が少ない。忙しくて。大学の友達と遊ぼうと言うと、バイトとか、サークルとかいってボツになる。「それはいいこと？」みんな深い付き合いだとしんどくなるから、まあそれでいいんじゃないかと。私もある程度という人がほとんど、深いのは2, 3人。

Table 4 現在の人間関係の満足度は何%くらい？ また、足りない部分は何？
(アンダーラインが実線は量的側面、点線は質的側面)

| | | | |
|----|---|--|-----------------|
| 1 | 60%くらい。「残りは何？」 <u>自分の意見を隠しといて相手に合わせる人間関係が良くない</u> など。「 <u>本音でつき合えるのは何人くらい？</u> 」学内では4, 5人。「 <u>それ以外の人も本音を言い合えるようになりたい</u> 」そうですね。「 <u>人数は？</u> 」今で満足している。 | | |
| 2 | すごく狭い中では100%だけど、狭すぎると思うから、80%くらい。 <u>それほど親しくない人との関係が残りの20%</u> 。でもその改善のための働きかけはしていないし、残りの大学生活ではできないと思う。 | | |
| 3 | 特に不満はないので、80%。ゼミの人とかでプレッシャーはあるけど、あとは楽しいし。「 <u>人数的にも今がベストくらい？</u> 」そうですね。 | | |
| 4 | 30%くらい。「残りは何？」 <u>気分のムラと、「そのムラは自分ではなおしたい」</u> はい。もう少し深い付き合いの友達が欲しい。高校生の時、共感できる友達が一人いて、でも今はなかなかいない。なれそうな人はいるけど、一緒にいる時間が少なくて、もう一步。 <u>知り合いの数を増やしたい</u> というのはいない。 <u>深くなりたい</u> 。でもそれには自分のことをいっぱい話さなきゃいけないから、そこで批判をされるのがこわい。(後略) | | |
| 5 | 80%くらい。「残りは何？」 <u>仲がいい人が近くにいないので、なかなか会えない</u> 。こっちが会いたいときに向こうも会いたいとは限らない。 | | |
| 6 | 70か80くらい。「残りは何？」 <u>人数は多い方がいいと思うけど、これ以上増やすときついと思う</u> 。だから <u>人数的には今がベスト</u> 。私は一人であるのが好きなので。ほっといて欲しい。(後略) | | |
| 7 | 25%くらい。自分から働きかけられない。そういう部分のウェイトが高いので。残り75%は自分の問題。「 <u>人数は？</u> 」 <u>知り合いの程度はこんなもんだと思うけど、すごい下らないことでも言える人は少ない</u> 。 | | |
| 8 | 75%。友達は満足してるけど、先生や院生が苦手で、質問に行くのもびびっちゃうんで、それが今困ってる。「どうすればいいかな？」徐々に。目上と接する機会がなかったの、どうしていいか解らないので、徐々に慣れていくしかない。 | | |
| 9 | 50%くらい。「残りは何？」 <u>もっと多くの人とコンタクトがあった方がいいと思うし、それ自体はそんなになくてもいいけど、もっと深い関係の人がいればいいかな</u> 、と。でもそれがないのは自分が不精だから、というのがあるかも知れない。私がそういう気なら、向こうだって、結構向いてくれるだろうし、ふだん会ってる子でも、もっとこちらから積極的に話しかけることによって、また違ったものが得られるかなって。 | | |
| 10 | 50%くらい。「残りは何？」 <u>新しい友達も欲しいし、でもその人と深い関係になれなかったら別にいいって感じ</u> 。少数精鋭で。「理想は、深い関係が何人かいて、表面的にはあまりいらぬ」うん。「じゃあ、 <u>残り50%は質の問題？</u> 」はい。(後略) | | |
| 11 | 50%くらい。「残りは何？」 <u>自分をしっかり持ててない、周りが見えてない</u> 。相手が悪いと思ってたら友達にならないから、その人達は人間関係にいてない。親しい人たちで上手くいってない場合を考える。 | | |
| 12 | 50%。「残りは何？」 <u>もっとみんなと仲良くなって、遊びや旅行にいったり、そういうこと</u> 。今仲いい子との仲をもっと深めていきたいとか。(中略)「 <u>人付き合いを広げるための行動は？</u> 」きっかけがあったら話しをするようにしている。ひとつのきっかけで親しくなることが多いから。 | | |
| 13 | 75%くらい。「残りは何？」 <u>話してて疲れる人がいるんで、そういうのが大部分</u> 。でも、 <u>友達も増やしたい</u> 。(後略) | | |
| 14 | 60%くらい。でも、悩みの渦中にあるから50%くらいかも。(中略)「 <u>残り40%は？</u> 」恋人とゼミと、親友の欠点を受け入れられない部分があって、それに触れる機会があったときに。 | | |
| | | | <u>数は丁度いい</u> 。 |
| 15 | 50%くらい。「残りは何？」 <u>踏み込めないとか、遠慮</u> 。あとは、自分が何に対しても思っていることを上手く言えないから、遠慮してる。 | | |
| 16 | 90はある。「100と言いきれないのは？」 <u>配慮で気を使うので、関係維持のコスト</u> 。「そのコストの原因は？」自分も相手も運も全部ある。 | | |
| 17 | 60%くらい。「残りは何？」 <u>私の性格というか、誰とでも気楽には話せない</u> ので、顔や名前だけ知ってる人には挨拶をしようか迷っちゃう。それが40%の内の30%。残りの10%が恋人。あと親との関係も。お互いに子離れ親離れしてないと思うんで。考え方が違う、時代と思うけど。 | | |
| 18 | 80, 90%くらい。100とは言い切れないけど。 <u>人数的にはベスト</u> 。ちょっと疎遠になってる友達が引っかかるかなってくらい。(後略) | | |
| 19 | (前略) 50%。「 <u>友達のウェイトが重い</u> 」うん。家族はあまり関係ない。 | | |
| 20 | 80%くらい。残りは忙しくなって仲のいい子と会えなくなったので、もうちょっとみんなと会いたいというのが。(後略) | | |
| 21 | 80%。「残りは何？」 <u>全部分かり合えるってのではないと思うけど、できるだけ深い部分で解り合えるっていうの、悪い面もあると思うけど、それにあこがれてる部分もある</u> 。 | | |
| 22 | 90%。「残りは何？」 <u>具体的にはわからないけど、これからもっと仲良くなれる気がするから、それくらいとっとうかな</u> 、と(笑)。 | | |
| 23 | 70%くらい。残り30%は、 <u>友人がもっと欲しい</u> 。自分が心を開ける人間関係がもう少し欲しい。あとは、 <u>彼氏と もっと仲良くなり</u> たい。親戚ももう少しあえたらいいなと思う。 | | |
| 24 | 友人とかでいえば7割か8割。いろんな人を全部含めるともっと低くなる。上手く人と話せないから、交友関係が広がっていかない。そういう部分を見ると。「 <u>じゃあ、量的に足りない？</u> 」 <u>親しい友人とに関しては満足してるけど、もっと他の人とのつながりに関しては足りない</u> 。(後略) | | |
| 25 | 80%くらい。「残りは何？」 <u>バイト先の人間関係とか、そういう表面的な人たちとこのままでいいのかなっていうのがある</u> 。踏み込んでみたいなって子もいるから。「 <u>どうして踏み込まない？</u> 」 <u>相手も深い関係を望んでいないかもしれない</u> と思うと。「この人とはこの程度の関係ってわかる？」この子とはただ一緒に騒ぐだけってのはある。あとはきっかけしだい。でも、自分からじゃなくて、相手から話してきたら、もっと親しくなってもいいかなと思う。結構臆病だから、自分から爆弾抱えて飛び込むのはできない。「 <u>残り20%の割合は？</u> 」バイトが15%、そのほか(恋人も含めて)が5%。 | | |
| 26 | 80%くらいですか。「残りは何？」 <u>恋人がいれば、もう少し精神的に安定する</u> んだろうと。去年はいたんだけど、価値観が合わなかった。 | | |
| 27 | 30%。あとは <u>量より質の問題</u> 。知り合いは多いといわれる。「 <u>その質を何とかするには？</u> 」まず自分が大人になること。 | | |
| 28 | 70%くらい、まあまあ。「残りは何？」 <u>もっと身近(大学)で深く付き合いたい</u> 。数ももう少し欲しい。「 <u>数と質の比率は？</u> 」 <u>質が60、数が40</u> 。 | | |
| 29 | 60%くらい。「残りは何？」 <u>もう少し自分を出せる人が欲しい</u> と思うときがある。自分を作っている人がいっぱいいると疲れる。誤解してみてる(美化してる)人がいっぱいいると思うと。でも踏み込む機会がない、けど会うと挨拶する人はいっぱいいる。踏み込む準備はできている。深いのと、中くらいのと、浅いのとで、 <u>浅い人の中くらいにしたい</u> 。今中間層がない。深いのは今まで通りでいい。あと、深いのは中学校からの人で遠いので、もうちょっと近くに欲しい。物理的に近くに。 | | |

Table 5 トラブル集団と孤立とどちらがイヤ？

(アンダーラインが実線は客観的・冷静な判断, 点線は情緒的恐怖・不安)

| | | |
|----|---|--|
| 1 | <u>トラブル集団の方がイヤ。「どうして？」仲間内で苦しむくらいなら一人で苦しむ方がましだから。</u> | がいいけど、いなかったら…。 <u>トラブルは何とか上手く行くかも知れない。</u> |
| 2 | トラブル集団がイヤ、孤立の方が楽と思う。わりと逃げちゃうほう。ちょっとわかんないけど。 | 16 孤立はイヤ。 <u>トラブルは解決すれば済む。孤立するのはこわい。</u> |
| 3 | それは孤立でいいです。 <u>トラブルにエネルギーを使いたくない。</u> | 17 孤立がイヤ。「どうして？」自分一人にいれる人は自分に自信があるからだと思うけど、私はまだそういうのがないので、何かの集団に属してないと安心できない。(後略) |
| 4 | トラブル集団の方がいい。「どうして？」 <u>トラブルがあった方が深まって行きそう。</u> | 18 孤立する方。「どうして？」基本的に寂しがりやだから。ごちゃごちゃやりながらも、まだ人間関係結べてる方が。 |
| 5 | 孤立には耐えられない。 | 19 やっぱり周りにいた方がいい。「どうして？」 <u>孤立よりはまし。さびしい。耐えられない。</u> |
| 6 | 集団がイヤかも知れない。孤立の方がまし。 <u>自分がしっかりあればいい。</u> | 20 集団の方がいいかもしれない。トラブルには何とか対処できるかも知れない。トラブルが起こせるというのは、いいことが言えるということだから。 |
| 7 | 関心を払っていない集団なら孤立してもかまわないけど、自分が親しくしたい人の中で孤立するなら喧嘩をしていた方がいい。(後略) | 21 どっちかって言うと孤立の方がこわい。トラブルの方が精神的にまだまし。 <u>孤立すると、今の状況が近いかもしれないけど、言えば返ってくる関係がないと、人間何となく耐えられないような感じがこの頃する。</u> |
| 8 | トラブルの方がいい。「どうして？」 <u>孤立することにすごい不安がある。それよりはまだ、腹が立っても人と関わる方がいいと最近思う。自分からは孤立できない。</u> | 22 孤立がイヤ。「どうして？」私はすごい一人に弱くて、だから、 <u>トラブルがあっても、みんなという方が全然いいと思う。</u> |
| 9 | 孤立する方がイヤかな。「どうして？」 <u>孤立してしまったら、相談する人もいないし、解決する手だてが見つかることが少ない気がして、トラブルだったら、ストレスは多いかも知れないけど、いい方向に持っていく努力が周りの人と一緒にできるような気がするから。孤立しているとこからトラブルを見たら二重のストレスがかかる。</u> | 23 孤立するほう。友達ってたいせつだから。喧嘩するほど仲がいい。人間から友人関係をとったら、かたよっちゃうし、貧しくなるし、淋しいから。 <u>山あり谷ありの方が幸せも大きい。</u> |
| 10 | 精神的には孤立している方がイヤだと思う。「どうして？」 <u>孤立すると後ろ向きになって、そういうのを客観的にみるとイヤ。</u> | 24 孤立の方がイヤかなあ。やっぱり、人がいた方が安心できる。いがみ合ってるだけの集団なんて無いと思う。でも、いがみあひしかなしい集団だったら一人の方がいいのかなあ。 |
| 11 | 孤立の方がイヤ。「どうして？」 <u>しょっちゅうトラブルがあるということはすぐに仲直りできてるということだから、外からみると、ずっといいなと。トラブルもできなくなったら寂しいと。</u> | 25 孤立する方がイヤ。寂しがりやだから。 |
| 12 | 孤立する方がイヤ。トラブルもイヤだけど、周りに人がいた方が、 <u>心が安定する。あの子一人なんだと思われるのがイヤ。</u> | 26 やっぱり孤立する方が辛い。トラブルが起きるのも大変だろうけど、 <u>孤立したら人間関係に入れない寂しさがある。</u> |
| 13 | トラブルの方がイヤ。 <u>ごたごたに巻き込まれたくない方が強い。</u> | 27 孤立する方がイヤ。「どうして？」どうしてでしょうね。心理学の実験だと、小さいときの愛情とか言いますけどね。 <u>親和欲求が強いと思う。昔いじめられたからかな？</u> |
| 14 | やっぱり集団の方がいい。孤立は嫌いですからというか、 <u>孤独感よりはまし。</u> | 28 孤立がイヤ。「どうして？」集団の一員だと安心できるし、私は何でも一緒にやるのは好きではないけど、 <u>孤立は全部が一人に思えて、寂しいなと思うときがあるんじゃないかと。</u> |
| 15 | 孤立するほう(がイヤ)。「どうして？」 <u>孤立したら淋しいし、トラブルがあって、離れたときに他の人がいればそっちの方</u> | 29 孤立するの。「どうして？」 <u>トラブルが起きてても、関わらないようにしとけばいいかなって。「関わらざるを得なかったら？」孤立すると何もできなさそうなんで。(後略)</u> |

れた。つまり、現状に不満を抱いていても、それを改善するための労力や危険を考えると、あえて現状の改善に取り組む必要はない、もしくは取り組めないとする回答である。ここには状況的なもの(忙しいなど)と心理的なもの(深く踏み込むのは怖いなど)の両要因が見いだされた。

さて、そのような現状にどの程度満足しているのかというのが次の質問「現在の人間関係に何%くらい満足しているか」である。ただしこの問いに対する回答(Table 4)についても、数字そのものには言及せず、

100%と言えないのは何が足りないかという質問に対する回答に着目したい。回答は大まかには対人関係の数を増やしたいという量的側面と、関係を深化させたいという質的側面が見いだされた。そして、これらの相対量を概観すると、量的側面で不満とする回答より、質的側面で不満とする回答の方が数多く見受けられる。多くの回答者が量的側面については現状に満足している一方で、ほとんどの回答者が質的側面には不満を抱いていることから、全般的には多くの回答者が現在の人間関係にある程度満足しつつも、さらに深い関係を形成することを望

んでいると考えられる。

さらに、「トラブルの絶えない集団の一員でいるのと、孤立するのとどちらがいやか」という質問では、かなりの割合で孤立の方がいやだとする回答者の方が多かった (Table 5)。また、その理由を尋ねたところ、トラブル集団の方がいやだとする回答者は「余計なことにエネルギーを使いたくない」等の客観的・冷静な判断に基づく回答が主だったのに対し、孤立がいやだとする回答者では「ひとりでは耐えられない」などの情緒的な恐怖・不安が多く挙げられた。Baumeister & Leary (1995) は、所属欲求 (the need to belong) と言うべきものが強力かつ基本的な動機であり、たとえそれがコストを要するものでも人は関係の解消を基本的には望まないことを明らかにしているが、今回の回答はその指摘と合致するものである。ただし、孤立そのものよりも、孤立による他者からの否定的評価が恐怖の対象となっていることを伺わせる回答は、現代の特徴の一つとして評価懸念の高さが挙げられる、という指摘を反映しているのかも知れない。

【全体的考察】

本研究の面接データから示唆された知見を簡略にまとめると、以下の点が挙げられよう。

1. 現代青年の対人関係に関するストレスの原因は、直接的な衝突によるものよりも良好な関係を維持するためのコストや、それが上手くできない劣等感が中心となっている。
2. それと関連して、葛藤を回避すること、そして個人の立場を尊重することが強力な規範となっている。ただしその一方で、能動的な他者への働きかけも重要であると考えている。
3. いろいろな (価値観の) 人がいるという暗黙裡の前提があり、その前提が対人関係の深化を妨げている可能性がある。
4. その一方で、関係を深化させたいという意志も少なからずある。
5. 冷静には対人関係維持のコストを自覚しつつも、情緒的に集団からの孤立を恐れている。

問題と目的では、現代青年の世代の特徴が対人関係と心理社会的ストレス過程に影響を及ぼす可能性として、(1) ストレッサーである対人ストレスイベント、(2) 外的対処資源であるサポートネットワーク、(3) 内的対処資源である社会的スキル、の変容可能性が挙げられた。そして今回のデータからは、そのそれぞれに関して、(1) 対人葛藤よりも対人劣等や対人摩耗の方が問題である可能性、(2) サポートネットワークが量的には十分でも質

的には不十分である可能性、(3) 既存の社会的スキル研究では扱われないスキルが存在する可能性、が示唆された。また、対人ストレスイベントに関する回答の全般的傾向は橋本 (1997 b) の調査結果とも合致した。以上のことから、世代の特徴の影響可能性の現象探索、および調査研究結果の妥当性の検証という本研究の全般的な目的は大まかには達成されたと考えられる。

そしてこれらの知見から、現代青年における対人関係の理想的なスタイルとしては「集団内でスムーズに関係を形成し、関係に積極的に関与しつつも、個人の価値観やプライバシーを侵害せず、葛藤は極力回避する」という典型像が想定されよう。しかし、これら全ての条件を満たすのは現実的に非常に困難であることは想像に難くない。そしてここで問題になってくるのが、現代青年にとっての日常生活におけるこの理想像の重要性、そしてこれが実現できないときに生じ得る反動であろう。この理想像を実現するためには言うまでもなく大きなコストがかかる。集団における自己の存在価値を維持するためには、個々の集団成員の理解、さらにその中で共通項を見いだしての円滑な立ち振る舞いが要求される。そしてこれらの実行に要する心理社会的コストがかなりの負荷となり、その結果、それ以外の社会的関係、例えば世代間関係や公共規範、に対して払うべきコストを低減させるという方略が採用されているのではなからうか。かといって、この規範を受容しないということは、所属集団からの疎外を引き起こす危険を含んでいる。そして本研究でも示唆されたように、集団からの離脱は情動的に耐え難いものである。そのようなジレンマの中、現代青年の対人関係規範を肯定的に体现している者は集団外関係に問題を抱え、疑問を持ちつつもとりあえずその規範にコミットしている者は対人関係維持のコストにストレスを感じ、そしてこの規範にコミット出来ない者は集団からの疎外感を感じているという現状が推測されよう。つまり、現代青年の対人関係は集団内における理想が非常に高いが故に、それが体现できない現実においてさまざまな歪みを提示しているのではなからうか。かつて Fromm (1941) は、健康を「社会への適応」と「人間的価値」の二面性、つまり社会からの承認と自己からの承認という観点から概念化している。同時に彼は、社会への適応は多くの場合、その代償に自己の放棄があるが故に、この両側面はほとんど両立しないことを主張している。そして冒頭で述べた現代青年の特徴、つまり「内集団での閉鎖的平和主義、そして自分と関わりのない他者への配慮の欠如」という現象は、コミットする範囲をある程度限定することによって「社会」と「自己」を両立させようとする試みなのかも知れない。

現代青年の対人関係について、「現代青年は対人関係能力が低下している」から種々の問題が生じるという指摘がある（藤竹，1994；松元，1996など）。もちろんその指摘を否定するわけではないが，本研究を通じて筆者は「対人関係規範のインフレーション」，つまり対人関係能力の現実の低下のみならず，対人関係能力の理想の高騰を強く感じた。今後はこのような状況を生み出した要因の詳細な検討とともに，対人葛藤や孤独感の肯定的側面（Collins & Laursen, 1992；諸井，1996など）の提示など，この傾向の必然性の再検討や規範の可塑性を高めるための方略も検討されるべきであろう。例えば，対人葛藤は確かにインパクトの大きいストレスであるが，その一方で青年の発達において重要な役割を果たすことは対人葛藤の精神分析モデル，社会生態学的モデル，認知発達のモデル，社会的関係モデルのいずれでもコンセンサスが得られており（Laursen & Collins, 1994），その意味では適度の対人葛藤の必要性は認められよう。

また，本研究で見いだされた知見の普遍性の検討も求められるのは言うまでもない。本研究は学歴・性差など被面接者にかかり片寄りがあることには留意すべきである。最後に，本研究はどうしても筆者の主観的解釈に依存するところが大きくなったが，付記されたデータから，また別の視点による提言がなされることにも期待したい。

引用文献

- Argyle, M. & Henderson, M. 1985 *The anatomy of relationships and the rules and skills needed to manage them successfully*. Intercontinental Literary Agency. (M. アーガイル・M. ヘンダーソン 著 吉森 護編訳 1992 人間関係のルールとスキル 北大路書房)
- Baumeister, R.F. & Leary, M.R. 1995 The need to belong: Desire for interpersonal attachments as a fundamental human motivation. *Psychological Bulletin*, 117, 497-529.
- Collins, W.A. & Laursen, B. 1992 Conflict and relationships during adolescence. In C.U. Shantz & W.W. Hartup (Eds.) *Conflict in Child and Adolescent Development*. Cambridge University Press. Pp.216-241.
- Fromm, E. 1941 *Escape From Freedom*. New York. (E. フロム著 日高六郎訳 1965 自由からの逃走 東京創元社)
- 藤竹 暁 1994 若者にとって幸せとは—満足社会のゆくえ— 有斐閣
- 橋本 剛 1997 a 対人関係が精神的健康に及ぼす影響—対人ストレス生起過程因果モデルの観点から— 実験社会心理学研究, 37, 50-64.
- 橋本 剛 1997b 大学生における対人ストレスイベント分類の試み 社会心理学研究, 13, 64-75.
- 岩間夏樹 1995 戦後若者文化の光芒—団塊・新人類・団塊ジュニアの軌跡— 日本経済新聞社
- 岸 良範 1989 大学生の対人関係 山崎久美子(編) 現代のエスプリ266 大学生のメンタルヘルス 至文堂 Pp.94-102.
- 小谷 敏 1993 モラトリアム・若者・社会—エリクソンと青年論・若者論— 小谷 敏(編) 若者論を読む 世界思想社 Pp.54-79.
- 栗原 彬 1989 やさしさの存在証明—若者と制度のインターフェイス— 新曜社
- Laursen, B., & Collins, W.A. 1994 Interpersonal conflict during adolescence. *Psychological Bulletin*, 115, 197-209.
- 松元泰儀 1996 人間関係のつまずきと病理 斎藤誠一(編) 人間関係の発達心理学4 青年期の人間関係 培風館 Pp.135-167.
- 宮台真司 1994 制服少女たちの選択 講談社
- 諸井克英 1996 対人関係の存在意義 長田雅喜(編) 対人関係の社会心理学 福村出版 Pp.121-131.
- Nelson-Jones, R. 1990 *Human relationship skills: Training and self-help*. Cassell Plc., London. (R. ネルソン=ジョーンズ 著 相川 充 訳 1993 思いやりの人間関係スキル—一人でできるトレーニング— 誠信書房)
- 西平直喜 1990 成人になること 東京大学出版会
- 大平 健 1995 やさしさの精神病理 岩波新書
- 大塚明子 1997 風俗・社会現象 鈴木 力(編) 情報・知識 imidas 集英社 Pp.1323-1329.
- 岡田 努 1996 現代青年は本当に変わってしまったのか—友人関係を中心として— 日本青年心理学会第4回大会発表論文集, 49-50.
- 関 鮎一・浦上昌則 1996 青年期人間関係の現代的課題 斎藤誠一(編) 人間関係の発達心理学4 青年期の人間関係 培風館 Pp.169-192.
- 千石 保 1996 「まじ」の哲学—平成若者論— 角川書店
- 千石 保 1994 マサツ回避の世代—若者のホンネと主張— PHP 研究所
- 千石 保 1991 「まじめ」の崩壊—平成日本の若者た

資 料

ちー サイマル出版会

実験社会心理学研究, 31, 49-59.

Turner, J.C. 1987 *Rediscovering the social group: A self-categorization theory*. Blackwell Publishers, Oxford, England through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo (J. C. ターナー 著 蘭千壽・磯崎三喜年・内藤哲雄・遠藤由美 訳 1995 社会集団の再発見-自己カテゴリー化理論- 誠信書房)

和田 実 1991 对人的有能性に関する研究-ノンバーバルスキル尺度および社会的スキル尺度の作成-

謝 辞

本論文の執筆において、貴重なご助言を下された名古屋大学 吉田俊和先生、南山大学 浦上昌則先生、ならびに多くの質問に真摯に御回答下さった被面接者の皆様に心より感謝申し上げます。

(1997年9月12日 受稿)

ABSTRACT

An Exploratory Study of Interpersonal Relationships among Modern Adolescents : An Interview Study of Female Undergraduates

Takeshi Hashimoto

Based on prior research and detailed interview data, this study examined the effects of interpersonal relationships on psychosocial stress process among adolescence, and discussed the validity of statistic data analysis of prior studies. Twenty-nine female undergraduates were interviewed two times through semi-structured interview. From the interview, the following possibilities are suggested; (1) perceived cost of maintaining good relations with others and inferiority complex are more serious than direct conflicts in terms of interpersonal stress; (2) avoidance of conflict and respect for individualistic needs are considered to be a strong norms; (3) On the other hand, active approaches are also considered as important; (4) there is an implicit premise that the diversity of values is excessively wide, and this premise prevents deepening of interpersonal relationships; (5) nevertheless, the desire to deepen interpersonal relationships is stronger than conceived; (6) there is a fear of isolation, even though the costs of maintaining interpersonal relations are rationally consciused.

Key words : modern adolescents, interpersonal relationship, psychosocial stress, exploratory study, semi-structured interview